

# 第59回 医学教育セミナーとワークショップ

## 開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。

第59回医学教育セミナーとワークショップは、岐阜で開催いたします。奮ってご参加ください。

岐阜大学医学教育開発研究センター 藤崎和彦

**日程 2016年1月23日(土)～1月24日(日)**

**会場 じゅうろくプラザ (JR岐阜駅前)**

2016  
冬

- WS-1 ザ・プロフェッショナル：熟達化とその評価 FELLOWSHIP A
- WS-2 臨床コンテクストで行動科学を学習するためのPBL教材を作成する T/L
- WS-3 第11回 医学教育研究技法ワークショップ  
「医療者教育の研究を立案してみよう」 R
- WS-4 歯科医療面接のキャップストーン、マイルストーンを作ろう CD
- WS-5 簡単にできちゃう！ eラーニング教材 T/L
- WS-6 IPE theater ～IPEの映像教材作りのステップ～ T/L
- セミナー 医学教育における医療人類学  
ーヘルスサイエンスとしての視点と方法 T/L

\* 記号( FELLOWSHIP )は、フェローシップ対応WS、他( T/L 等)は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページ「[アソシエイト・フェローシップのご案内](#)」をご覧ください。

		プログラム					
23日 (土)	午後	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4	WS-5	WS-6
	夕	セミナー					
	夜	懇親会					
24日 (日)	午前	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4		

## WS-1 ザ・プロフェッショナル：熟達化とその評価

FELLOWSHIP

A

企画： 西城卓也・今福輪太郎・恒川幸司（MEDC）、尾原晴雄（沖縄県立中部病院）

日時： 23日（土）13:00-17:30、24日（日）9:15-12:45

概要： 医療者は、働きながらどのように専門性を高められるのでしょうか？「継続は力なり（Practice makes perfect.）」とは有名なことわざです。しかし長年経験したからと言って誰もが“ザ・プロフェッショナル”になれるとは限りません。また「評価は学習をドライブする（Assessment drives learning.）」といった教育の格言が広く知られています。しかし「評価疲れ」という言葉の通り、評価はするのにもされるのにも疲れます。評価さえ受ければ医療者はエキスパートになれるわけでもなさそうです。このワークショップでは、まずエリクソンの熟達化理論を基盤に、医療者はどんな環境で、どのように継続的に努力し、その能力を開発していくのかを議論します。その時の指導者やメンターの役割は何か？そしてプロフェッショナルらしさとはどういう意味なのか？それを評価する方法はいかなるものか？グループワークを通じて斬新なアイデアを共有することを目指します。

対象： 卒前・卒後にかかわらず、医・歯・薬・看護・理学療法教育など医療系教育機関に所属し、教育にかかわっている方。レベルは初～中級向けです。今回、本ワークショップはMEDCフェロシップモジュール2の参加者限定としてトライアル開催いたしますのでご了承ください。（定員24名）

## WS-2 臨床コンテキストで行動科学を学習するためのPBL教材を作成する

T/L

企画： 日本医学教育学会 準備教育・行動科学教育委員会（和泉俊一郎、星野 晋、竹腰 進、櫻田美雄、道信良子、川上ちひろ、若林英樹、日高友郎、河本慶子、大貫優子）

日時： 23日（土）13:00-17:30、24日（日）9:15-12:45

概要： 本邦の全医学部では国際認証を目指して卒前医学教育カリキュラムの改編が進行しており、多方面からの充実が期待されている。その一方で、社会科学・人文科学にかかわる科目の学習機会の減少が危惧されている。「医師としての人格の涵養」のためには、医学生のうち、社会科学・行動科学的視点を広い意味で修得することが重要と考えられる。しかし学習者である医学生の立場からすれば、医療現場の文脈でさまざまな視点が実感されることが喜ばしい。これまでも委員会企画では、卒後を含めた医療実習現場での指導医に参加していただいて、PBLのためのシナリオ作成のワークショップを行ってきた。今回はそのプロトタイプを検証と発展を目指して、参加者とともにさらに興味深いシナリオを作成します。PBL用の独自のシナリオ作成を希望の方は、そのノウハウも習得できます。

対象： 医学教育に携わる社会科学・人文科学の教員、臨床指導医、教材作成指導者、医学教育に興味を持つ医師（定員18名）

## WS-3 第11回 医学教育研究技法ワークショップ 「医療者教育の研究を立案してみよう」

R

企画： 日本医学教育学会 教育研究開発委員会（鈴木康之、大滝純司、尾原晴雄、伊藤俊之、石川ひろの、錦織 宏、向原 圭、西城卓也）

日時： 23日（土）13:00-17:30、24日（日）9:15-12:45

概要： 医学・医療者教育分野の研究を始めようとしたとき、リサーチエスションの設定、先行研究の検索、研究方法の選択、研究計画、倫理的配慮など、様々な検討が必要となります。本ワークショップでは、参加者の皆さんが温めている研究構想を尊重しつつ、リサーチエスション、先行研究調査、研究方法などをタスク・参加者と共に考え、参加者個々の研究構想をブラッシュアップしていきます。ワークショップで議論する研究構想などは報告書等には掲載いたしませんので安心してご参加ください。

対象： 医療者教育研究を計画している方・構想中の方（定員12名、テーマのある方を優先します）

## WS-4 歯科医療面接のキャップストーン、マイルストーンを作ろう

CD

企画： 伊藤孝訓（日本大学松戸歯学部）、小川哲次（広島大学）、木尾哲朗（九州歯科大学）、長谷川篤司（昭和大学）、鈴木一吉（愛知学院大学）、吉田登志子（岡山大学）、藤崎和彦（MEDC）

日時： 23日（土）13:00-17:30、24日（日）9:15-12:45

概要： 医療のプロフェッショナル教育を考えると、重要な基本的要素には「行動科学や人間教育」があり、治療のテクニカルな面だけでなく、患者対応に欠かせない医療人教養を修得することは大切な事項である。歯科医療は患者との協働作業と言われていることから、信頼関係を築くには、初めて出会う初診時の医療面接は重要な機会となる。コミュニケーション学・医療人間学・プロフェッソナリズム・医療倫理学・行動科学・医療心理学・医学判断学・患者学などをこれまでの積み上げ方式でなく、できる限り枠組みを外し、学年が上がるにつれて知識の統合をうまく行えるような螺旋型教育を行うことで、臨床場面へ向けて、より実践的な知識の整理修得ができるようになる。

そこで、初年次教育、専門基礎教育（臨床実習前）、卒業時（臨床実習修了時）、臨床研修修了時、そして一般歯科医師としてのアウトカムに至るまでの学習のロードマップを創出し、段階に応じた学修や評価にかかわる水準などについて明らかにすることを目的とする。

対象： 歯科医療教育機関において「医療面接」教育に携わっている教員（定員15名）

## WS-5 簡単にできちゃう！eラーニング教材

T/L

企画： 日本医学教育学会 広報・情報基盤開発委員会（R. ブルーヘルマンズ、菅沼太陽、椎橋実智男、丹羽雅之）

日時： 23日（土）13:00-17:30

概要： AAMC（the Association of American Medical Colleges：米国医学校協会）のMedEdPORTALでは、医学教育に関わる教材、素材、資料などを共有し、活用するシステムが運営されています。また、それらの質保証のための査読の仕組み、教育業績として認める仕組みも構築されており、世界的な規模では医学教育で使えるeラーニングの教材、素材、資料は共有され活用されていると言えます。一方、わが国においては、その必要性は10年以上前から主張されているものの、各大学の個人の教員がバラバラに活動しており、実現できていません。日本医学教育学会の広報・情報基盤開発委員会では「日本版MedEdPORTAL」のような仕組みの構築が必要であると考え、今年度からxerte（ザーティ）と呼ばれるeラーニングの教材作成サーバを立ち上げ、医学教育で使えるeラーニングの開発と共有への取り組みを開始しました。

本ワークショップでは、xerteを用いてeラーニング教材を作成し、さらに、自学でそれらを実際に教育に使うための方策を議論します。

また、eラーニング教材を共有したり、教育業績としていくことについて、creative commons（<http://creativecommons.jp>）の考え方も参考にして議論したいと思います。

対象： eラーニング教材の開発や共有に興味のある教職員、学生。ただし、日本医学教育学会会員に限ります。（定員15名）

当日お持ちいただくもの・・・無線LANが利用可能なパソコン（ブラウザ環境：Edge は不可）、Wi-Fi装置（必須ではないがあればベター）

## WS-6 IPE theater ～IPEの映像教材作りのステップ～

T/L

企画： 川上ちひろ・今福輪太郎・恒川幸司（MEDC）、若林英樹・近藤 諭（三重大学）、堀 能雄（プラド）

日時： 23日（土）13:00-17:30

概要： IPEで利用できる効果的な教育方法やさまざまな教材が開発されているが、その1つに映像教材がある。しかし一般的に利用できる汎用性の高い映像教材はなく、自前で作成しようとしても容易にできないため、教材開発に二の足を踏んでいることも少なくないと考えられる。岐阜大学、三重大学では昨年度、独自でIPEの映像教材を作成したのでそれらをご覧いただき、カリキュラムの中でどのように用いると効果的かを検討したい。また、映像教材を手軽に作成できる方法の一例も紹介したい。

対象： IPEで用いる映像教材作成に興味がある（作ってみたい）方（定員25名）

## セミナー 医学教育における医療人類学—ヘルスサイエンスとしての視点と方法

T/L

講師： 道信良子（札幌医科大学）

日時： 23日（土）17:45-18:45

概要： 医学の道を進む人たちに医療人類学を教える意義は、人が「生きる」ということを人間の身体を基点にとらえるのではなく、人をとりまく社会や自然の環境とのかかわりのなかで見つめ、理解する方法を広めることにある。病い、障がい、痛み、苦しみなど、医学の対象となるものはすべて、人がそれぞれ生きている社会や自然のなかで経験することである。その経験は同じ文化集団を生きる人びとによって共有されている。つまり、個人と外界とをつなぐものが文化である。医療人類学はこのような理論的前提に立ち、「文化」を基本概念として、世界の民族の病気治療や環境適応を調査・研究してきた。そして、その多様性を明らかにすることによって、現代医学を相対化し、医療に対する幅広い見方を伝えることが医学教育における目的となっている。本セミナーでは、このような医学への医療人類学の応用的教育から一歩進んで、人びとが健康によりよく生きることに関与するヘルスサイエンスの一領域としての医療人類学の視点と教育方法について考える。





## 参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。  
「MEDC」で簡単検索できます。

**締め切り：2016年 1月11日(月)**

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。  
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。  
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

**参加費：** 2,000円（資料代） 学部学生無料

**懇親会費：** 4,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。

資料代は、資料ならびに第59回セミナーとワークショップの報告が掲載されている、「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。（学部学生への送付はありません）

**会場：** じゅうろくプラザ（〒500-8856 岐阜市橋本町1丁目10-11）



JR岐阜駅から徒歩2分、名鉄岐阜駅から徒歩7分

\*\* JR岐阜駅2階周辺歩行者用デッキから直結しています \*\*